



哺乳類 *Mammalians*

弥栄ダム周辺には、小型から大型の哺乳類が生息しています。

小型の哺乳類は、森林に生息する種、林縁や草地に生息する種、地面の中に生息する種、水辺などで餌をとる種などがみられます。また、中型から大型の哺乳類は、行動圏が広く、水辺や山地を餌場などに利用している種がみられます。それぞれの生活スタイルに合わせて、ダム周辺を利用する多様な哺乳類がみられます。

ここでは、弥栄ダム周辺でみられる代表的な10種を紹介します。

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus cornutus*



- **分類**
コウモリ目キクガシラコウモリ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長35～50mm、翼の長さ36～44mm、体重4.5～9g。日本で最も小さなコウモリです。体毛は淡い褐色で、花びらのような形をした鼻（鼻葉〔びよう〕）をもちます。日没後、夜間に川面や地表すれすれを飛びまわって、ユスリカやガガンボなどの飛翔昆虫を食べています。昼間は洞くつやトンネルで休んでいて、100頭をこえる大きな集団がみられることもありますが、秋の交尾期をのぞいて、オスとメスが分かれて生活する傾向があります。

生 息 場 所

おもに山地から里山の洞くつに生息します。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

出産期は7月。親は10～11月に交尾しますが、冬の間は受精しないため、出産は翌年の初夏になります。1産1子で、子育ての期間は40～45日です。メスだけで洞くつに大きな集団を形成し出産、子育てを行います。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													山地から里山の洞くつ
出現時期													山地から里山の洞くつ

ユビナガコウモリ *Miniopterus schreibersi*



- **分類**
コウモリ目ヒナコウモリ科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【広島】

特 徴

体長は59～69mm、翼の長さ45～51mm、体重10～17g。中型のコウモリです。体色はこげ茶色で、体毛は短く、柔らかい光沢があります。狭くて長い翼を持ち、開けた空間を素早く飛び回ります。日没後、川の上空や林縁、草原など開けた場所で、飛んでいる昆虫を食べています。昼間は洞くつで大きな集団をつくり、体を密にふれ合わせて休眠します。翼の第3指（中指）が特に長いことから、「指長」コウモリと名付けられました。

生 息 場 所

大きな洞くつに生息しますが、弥栄ダムの試堀洞などの狭い場所でも確認されています。日没後から日の出前まで森林や河川、草原の上空を広範囲に飛びまわります。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

出産期は7月。親は10月に交尾し、ただちに受精しますが、冬眠期間中は受精卵の発生が止まります。翌春に発生が再開し、約3ヶ月後の初夏に出産します。1産1子で子育ての期間は30日ほどです。出産、哺育時にはメスだけで大きな集団を形成します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													洞くつ
出現時期													大きな洞くつ

ノウサギ *Lepus brachyurus*



- **分類**
ウサギ目ウサギ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長は48～54cm、尾長2～5cm、体重2.1～2.6kg。
体色は全体的に薄茶色で、腹面は白色です。耳の先端は黒っぽく、自由に動かすことができます。
さまざまな植物をエサとして、草や木の葉、新芽、樹皮を食べています。
夜行性で、ふだんは群れることなく単独で暮らしています。大きな耳で遠くの音を察知し、危険を感じると、発達した後ろ足で跳びはねるように逃げ去ります。

生 息 場 所

平地から山地の草原や森林に生息します。草原の間のくぼみやササの下などに潜んでいます。
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川で見られます。

繁 殖

出産期はおもに4～8月。
2～7月ごろ、3～5回出産します。妊娠期間は42～47日。一回に産まれる子の数はふつう2頭です。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													草原や藪の下
出現時期													平地から山地の草原や森林

アカネズミ *Apodemus speciosus speciosus*



- **分類**
ネズミ目ネズミ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長は8～14cm、尾長7～13cm、体重20～60g。
全体的に赤みのある茶色で、腹は白色です。尾は長く、尾の長さは体長とほぼ同じです。
低地の草地から山地の森林までさまざまな環境にすんでいて、木に登ることはなく、ほとんど地上で生活します。
冬は冬眠せずに活動し、雑食性で昆虫も食べますが、おもに植物の根や実、種などを食べています。

生 息 場 所

森林から低地、田畑まで広く生息します。
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川で見られます。

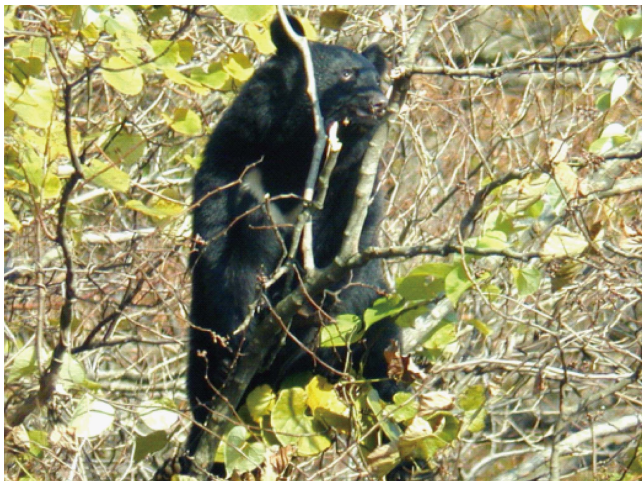
繁 殖

出産期は春から秋。地中や倒木の穴などで出産します。
おもに春と秋の2回（寒冷地では1回）繁殖し、一回に産まれる子の数は1～8頭です。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													地中や倒木の穴
出現時期													森林、田畑など

ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus*



■ 分類

ネコ目クマ科

■ 重要種指定

絶滅の恐れのある地域個体群(西中国地域のツキノワグマ)【環境省】

絶滅危惧Ⅰ類・指定野生生物種【広島】

絶滅危惧ⅠA類【山口】

特 徴

体長は110～145cm、体重40～130kg。

全身黒色で、胸に白い三日月模様があります。

雑食性で季節ごとにさまざまなものを食べ、春は若芽や草などの植物、夏はアリ、ハチなどの昆虫類、秋はクリ、ミズナラ、サワグルミなどの木の実を多く食べています。

昼夜を問わず活動と休息をくり返すため、行動する時間帯はそれぞれの個体により違います。冬になると樹洞や岩穴などで冬ごもりに入ります。メスは冬ごもり中に1～2頭を出産します。

生 息 場 所

山地の広葉樹林を中心に生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でまれにみられます。

繁 殖

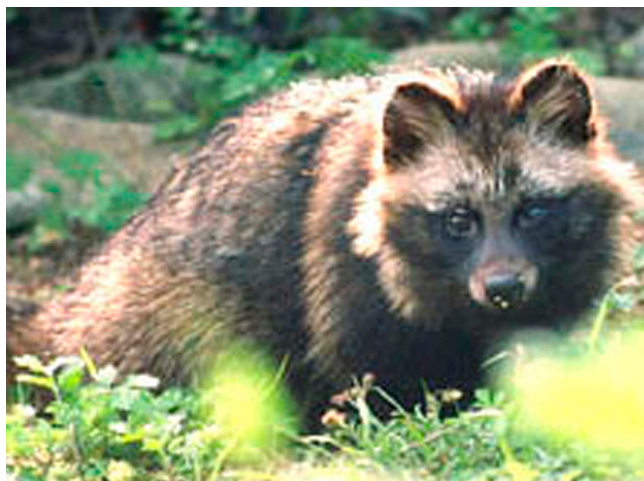
出産期は2月ごろ。

交尾期は5月～7月で、冬ごもり中に出産します。一般的には、一回に産まれる子の数は2頭です。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													樹洞や岩穴
出現時期													広葉樹の森林

タヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus*



- **分類**
ネコ目イヌ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長は50～60cm、尾長は15～20cm、体重3～5kg。
ずんぐりとした体形で、耳や鼻は丸く、口先はとがっています。全身白毛が混じった暗い灰色で、眼の周囲と足、尾の先が黒くなっています。
雑食性で、果実、木や草の根、地下茎などの植物のほかに、昆虫、両生類、貝類、小魚、小鳥、ネズミなどさまざまなものを食べています。
特定の場所に集中してフンをする、「ためフン」と呼ばれる習性があります。「ためフン」は、なわばり関係があると考えられています。
県内では、タヌキは「まみ」、アナグマは「むじな」と呼ばれ区別されますが、地域によっては「まみ」と「むじな」を混用するところもあります。

生 息 場 所

おもに樹林やその林縁部、川や池などが散在する場所に多く生息します。
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

出産期は5～6月。
2月下旬～4月に交尾をし、5～6月に4～6頭の子を出産します。特定の巣は作らず、樹木の根元や岩の割れ目、他の動物が掘った穴などを利用します。生後約1年で、親と同じ大きさに成長します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													樹木の根元や岩の割れ目
出現時期													樹林やその林縁部など

キツネ *Vulpes vulpes japonica*



- **分類**
ネコ目イヌ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長は60～78cm、尾長は40～50cm、体重約5～7kg。
口が長く、ほおがこけた顔つきで、耳は直立しています。胴は細くしなやかで、長い尾をもっています。体色は、ふつう背中が赤みのある茶色で、ノドの下から腹部は白色です。
雑食性で野ネズミ、鳥類、爬虫類のほか、昆虫類、果実などさまざまなものを食べています。動物を捕まえるときはいったん高く飛び上がり、真上から押さえつけて捕えます。
キツネのフンには毛や昆虫などが混じっており、切株の上や草の上など、目立つ場所でよくみられます。

生 息 場 所

平地から高山の田畑や草原など、小さな森と集落が入り組んだ環境によく生息します。
弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、長谷川で見られます。

繁 殖

出産期は3～5月。
冬季（12月～翌2月）に交尾し、妊娠期間は約52日。子育て期間は約3ヶ月です。巣は自分で土に穴を掘って作りますが、空き家の床下や自然の洞くつを利用することもあります。
冬から春にかけては家族で生活します。5～6月になると複数の巣穴を転々と移動し、7月頃からはほとんど巣穴を使用しなくなります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													空き家の床下や自然の洞くつ、 岩の割れ目など
出現時期													田畑や草原、集落地周辺など

テン *Martes melampus melampus*



- **分類**
ネコ目イタチ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長40～45cm、尾長20～25cm、体重1～1.5kgで、オスに比べメスの体が小さい種です。体型は胴長で、足は短く、太い尾を持っています。頭部は平たく、耳は丸く立っており、口先はとがっています。夏は体が薄茶色で、冬には鮮やかな黄色になる"キテン"と、一年中ほぼ変わらず体が黒ずんだ茶色の"スステン"に分かれます。雑食性で、果実や昆虫類、カエル、ヘビ、小魚、小鳥、ネズミなどを食べています。イタチとよく似ていますが、テンのほうが大型であること、耳がはっきりと体毛の外に出ていることで区別できます。

生 息 場 所

おもに森林に生息しますが、樹木があれば人家周辺にもみられます。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

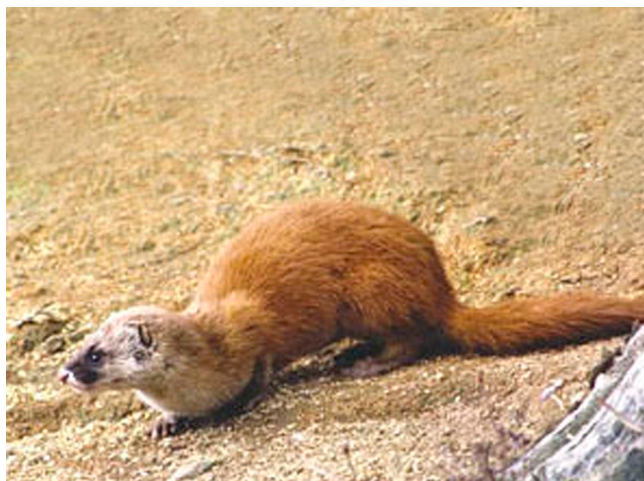
繁 殖

出産期は4～5月。
7～8月に交尾し、約8ヶ月後に出産します。樹洞などを巣として利用します。一夫多妻で、メスが単独で子育てをおこないます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													樹洞
出現時期													森林

イタチ類 *Mustela* sp.



- **分類**
ネコ目イタチ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長16～37cm、尾長7～16cm、体重140～700g（イタチ）、体長25～39cm、尾長13～21cm、体重360～820g（チョウセンイタチ）。
尾の長さが体長の半分よりも短いイタチ（在来種）と、半分より長いチョウセンイタチ（外来種）がいます。体色は夏は薄茶色で、冬は黄色になります。アゴの下は白く、額から鼻にかけて黒色の斑紋があります。
ネズミ類や小鳥の卵、ヒナ、昆虫類、カエルなどのほか、ヤマグワ、ヤマブドウの実などを食べることもあります。
倒木の上や石の上などの目立つ場所に、細くねじれたフンをよく残します。

生 息 場 所

平野部の草地、川沿いなどの水辺のほか、低地の田畑や人家の周辺にも生息します。西日本では近年、外来種のチョウセンイタチが優勢になり、イタチは山間部などに追い込まれているとされています。
弥栄ダム周辺では、弥栄湖周辺および流入河川で見られます。

繁 殖

出産期は4～6月。
3～5月に交尾し、ほぼ1ヶ月後に出産します。交尾期以外はオス、メスともに単独で暮らし、メスは自分の行動圏内の巣で子育てをおこないます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													土穴
出現時期													平野部の草地や、川沿いなどの水辺

イノシシ *Sus scrofa leucomystax*



- **分類**
ウシ目イノシシ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

体長110～160cm、尾長約23cm、体重50～150kgで、オスにくらべてメスの体が小さい種です。どっしりとして頑丈な体型で、暗い茶色や黒色の剛毛で覆われています。耳は小さく、鼻の先が丸く大きな形をしています。雑食性で、土を鼻先で掘り返しながら草の根やミミズ、ドングリなどを食べます。夜になると、休耕田や田畑、竹林、水辺などで派手に土を掘り返してエサを探すため、重機が入ったような跡が残ります。

生 息 場 所

山地の広葉樹林に生息します。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

繁 殖

出産期は4月下旬から7月上旬です。交尾は12～3月。妊娠期間は約120日で、一回に産まれる子の数は2～8頭です。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出産期													草を積み上げた巣
出現時期													山地の広葉樹林